

授業計画（シラバス）

生活プロデュース学科

1年

クリックすると該当のページへジャンプします

- ・生活プロデュース概論
- ・ゼミナール I
- ・オフィスワーク演習
- ・サービス介助演習 A
- ・色彩学 A
- ・色彩学 B
- ・ファッション基礎実験
- ・子供服と小物の演習 A
- ・子供服と小物の演習 B
- ・ファッションデザイン論
- ・カラーとクラフト
- ・ファッション販売論
- ・ファッションビジネス論
- ・ラッピングコーディネート演習
- ・ファッションと生活
- ・食物と健康
- ・トータルクッキング IA
- ・トータルクッキング IB
- ・フードコーディネート基礎
- ・栄養学 I
- ・食品学
- ・トータルクッキング II
- ・フードビジネス特講
- ・栄養学 II
- ・食空間プランニング
- ・環境と暮らし
- ・インテリア計画
- ・インテリアコーディネーション
- ・ビジュアルデザイン
- ・カラーコーディネーション
- ・インテリア設計 I
- ・住まいの計画
- ・福祉住環境コーディネート論
- ・CAD 入門
- ・ディスプレイ・収納計画演習
- ・発達心理学
- ・布おもちゃ製作
- ・キッズスペース論
- ・心理学 A
- ・子どものワークショップ演習 I
- ・チャイルドケア論
- ・接客サービス特講

科目名 (英語名)	生活プロデュース概論 LIFE-STYLE MANAGEMENT		科目コード	(ふりがな) 担当者	みずがみ ゆたか 水上 裕	専任・非常勤
			222025			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] 初回授業時には入学前の事前学習の課題を使います。						
[授業の具体的到達目標] 人への気遣いができるマナーを身につける。 ものごとを考えるための基本的な方法を身につける。 生活全般にわたる基本的な考え方や知識を身につける。						
[授業の概要] 自立して輝く女性になるために、自分自身に磨きをかけます。ものごとの考え方を身につけ、生活していくにあたって必要となるものの見方について学ぶ授業です。						
[授業計画]						[担当]
1回	生活プロデュース学科で何を学ぶか(学科長) お薦めの1冊を紹介する(全員)			4/13	全員	
2回	自己肯定感・自己効力感を高める			4/20	沖潮	
3回	情報のつなげ方・レポートのまとめ方			4/27	佐藤	
4回	個別面談/「情報との出会い方」演習/情報検索の自習 ※3グループに分けて実施			5/11	全員	
5回	個別面談/「情報との出会い方」演習/情報検索の自習 ※3グループに分けて実施			5/18	全員	
6回	個別面談/「情報との出会い方」演習/情報検索の自習 ※3グループに分けて実施			5/25	全員	
7回	ストレスと上手につきあう生活				猿渡	
8回	本から得られた情報を伝える(クラスごとに実施)			6/8	全員	
9回	ファッションについて考える			6/15	太田・小出	
10回	食について考える			6/22	吉川・林	
11回	住まうことについて考える			6/29	大橋・水上	
12回	健康的な生活・生活習慣について考える			7/6	小泉	
13回	授業で学んだことを伝え合う(クラス別に実施)			7/13	全員	
14回	自立して輝く生き方を卒業生から学ぶ			7/20	全員	
15回	今後1年半の学生生活や卒業後の生活のイメージを伝え合う(クラス別に実施)			7/27	全員	
試験等	レポート課題					
[成績評価] 課題およびクラス別発表2回分の評価:30%、授業態度・授業時のシートの評価70%の総合評価とします。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 第8回、第13回の発表に用いる課題の作成は、授業時間外に取り組んでください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 上記以外の担当者:生活プロデュース学科専任教員全員 個別面談等、クラス別で実施する回があります。 「情報との出会い方」演習は図書館で行います。図書館は授業時間外にも積極的に活用してください。						

科目名 (英語名)	ゼミナールI SEMINAR I		科目コード	(ふりがな) 担当者	みずがみ ゆたか 水上 裕	専任・非常勤
			262030			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 特になし。						
[授業の具体的到達目標] グループでの話し合いに積極的に参加し、意見をまとめていくことに貢献できるようになる。 仕事に就くことの意義を認識するとともに、社会に対する興味を持って業界研究をする能力を身につける。 自分自身で積極的に就職活動を行っていくことができる動機を得る。						
[授業の概要] 他者や社会とつながるための知識やスキルを、演習を通じて学びます。就職することを意識し自立を目指して具体的にどのように行動していかなければならないかを考えます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	就職活動を意識するためのガイダンス (コース別)				9/14	全員
2 回	卒業生から就職活動方法を学ぶ (コース別)				9/21	全員
3 回	グループディスカッションの体験学習/模擬面接の説明 (コース別)				9/28	全員
4 回	ゼミナール説明会/課題1 (情報/新聞レポート) の説明 (全コース合同)				10/5	全員
5 回	模擬面接/☆新聞とWEBの情報/新聞レポート作成の検討 ※3 グループ異なる内容				10/12	全員
6 回	模擬面接/☆新聞とWEBの情報/新聞レポート作成の検討 ※3 グループ異なる内容				10/19	全員
7 回	模擬面接/☆新聞とWEBの情報/新聞レポート作成の検討 ※3 グループ異なる内容				10/26	全員
8 回	ゼミナール顔合わせ・課題1の発表				11/2	全員
9 回	企業研究・業界研究の方法を学ぶ (課題2の説明)				11/16	全員
10 回	個別面談/☆業界について調べる/業界研究レポートの作成 ※3 グループ異なる内容				11/30	全員
11 回	個別面談/☆業界について調べる/業界研究レポートの作成 ※3 グループ異なる内容				12/7	全員
12 回	個別面談/☆業界について調べる/業界研究レポートの作成 ※3 グループ異なる内容				12/14	全員
13 回	ゼミナールでのグループワーク (課題2の発表) (ゼミ別)				12/21	全員
14 回	テーブルマナーの実習 ※日程等に注意 代休の日に学外で実施する (1/11は休講)				1/10	全員
15 回	社会人としてのマナーを考える (ゼミ別)				1/18	全員
試験等	レポート課題					
[成績評価] 課題:30%、授業態度・授業時のシートの内容70%の総合評価とします。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 新聞レポートと業界研究レポートの作成には、授業時間外にも取り組んで完成度の高いものを仕上げてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 上記以外の担当者：生活プロデュース学科専任教員全員 前半はコース別に、後半はゼミごとに授業を行う形態が基本となります。 ☆印のある演習は図書館で行います。図書館については授業時間外も積極的に活用してください。						

科目名 (英語名)	オフィスワーク演習 Practical Training of Office Work		科目コード 262515	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	後期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] * この授業では、教室でビジネスマナーを実践することも大きな目標ですので、遅刻厳禁です。 * 学んだことを「丸暗記する」のではなく、「身に付ける」つもりで授業に臨んでください。 * 毎回、テキストを必ず持参してください。						
[授業の具体的到達目標] ① 社会人としての常識や心構え、職場に必要なビジネスマナーやスキルを演習形式で学び、身に付ける。 ② 職場で使われるコミュニケーション手段の基本を身に付け、特徴を理解して使いこなせるようになる。 ③ それらの知識や力を、インターンシップや就職活動にも活用できるよう、即実践して体得する。						
[授業の概要] 事務職に限らず、どのような職場においても、組織の一員として社内外の人々と上手にコミュニケーションをとりながら、仕事をスムーズに的確に進めていくために必要な、マナーや知識を身に付けていきます。実際に電話やパソコン等を使用した演習形式での授業です。						
[授業計画]						[担当]
1 回	はじめに (受講するにあたっての約束・目標)、職場におけるコミュニケーション (挨拶・返事)					佐藤
2 回	言葉遣い (敬語、クッション言葉、丁寧さの度合い) 《ミニテスト①》					佐藤
3 回	言葉遣い (社内・社外の使い分け) 《ミニテスト②》					佐藤
4 回	ビジネス電話 (かけ方・受け方・取り次ぎ方) / メモの取り方・まとめ方					佐藤
5 回	ロールプレイング (4回の復習) / 練習問題 《提出》					佐藤
6 回	ロールプレイング (4回の復習) / 練習問題 《提出》					佐藤
7 回	来客応対と訪問、名刺の扱い					佐藤
8 回	ロールプレイング (7回の復習) / 練習問題 《提出》					佐藤
9 回	ロールプレイング (7回の復習) / 練習問題 《提出》					佐藤
10 回	ビジネスメール① 《課題提出》					佐藤
11 回	ビジネスメール② 《ミニテスト③》					佐藤
12 回	ビジネスレター① 《課題提出》					佐藤
13 回	ビジネスレター② 《ミニテスト④》					佐藤
14 回	封筒・はがきの書き方、郵送の知識、					佐藤
15 回	10 回～15 回の総復習					佐藤
試験等	実施					
[成績評価] 以下の通り、総合的に評価します。 授業への参加状況・課題提出状況 60%、ミニテスト 20%、期末テスト 20%						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 予習：テキストの次回の内容を読んでくる。 復習：学んだことを日常生活でも即実践する。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	「オフィスワーク演習テキスト」	長谷川文代、天沼真佐子、佐藤知条				
参考文献	「ワークで学ぶビジネスマナー」	中村 健壽 (編)	西文社			
	「ワークで学ぶコミュニケーションスキル」	中村 健壽 (編)	西文社			
[備考] その他の担当者：天沼 真佐子、長谷川 文代 (3人で1クラスずつ担当) 後半パソコンを使用する回もあります。						

科目名 (英語名)	サービス介助演習 A CARE-FIT A		科目コード 222445	(ふりがな) 担当者	こいずみ あや 小泉 綾	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等]						
<p>①介助に興味を持ち、「サービス介助士」の資格取得を目指す学生。</p> <p>②受講費用として¥21,060 が必要となる (通常 ¥41,040 の受講料を学校が一部補助)。</p> <p>③動きやすい服装 (スカート不可)・体育館シューズ、証明写真 (縦4cm×横3cm、受講票用) を準備すること。</p> <p>④授業の内容は毎回違い、資格取得のために全てが必要となる。遅刻や早退、欠席は、原則として認めない。</p> <p>⑤資格を取得するためには、①全ての授業を受講する、②提出課題で60点以上取得する、③実技・筆記試験 (70点以上取得) に合格する、以上の3つの条件が必要となる。</p> <p>⑥受講希望者が多い場合は、抽選をする (最大20名程度)。</p>						
[授業の具体的到達目標]						
<p>①サービス介助士に合格するための知識・技術を習得する。</p> <p>②相手の立場を考え行動できる「ホスピタリティ・マインド」を向上させる。</p> <p>③相手にとって安全で安心できる「正しい介助技術」を身につける。</p>						
[授業の概要]						
<p>授業計画で扱う内容の通り、高齢者疑似体験、車いす基本操作、視覚障害者に対する手引きなどのサービス介助士資格の取得のために必要な知識や技術について学んでいく。また、授業内の空き時間や自宅学習を利用して資格取得に必要な課題を提出する。</p>						
[授業計画]						[担当]
1 回	授業の目的、進め方、サービス介助士の基本理念、介助と介護の違い、サービス介助士に必要な資質					
2 回	高齢者のイメージ、疑似体験の注意事項の説明、高齢者疑似体験、感想、高齢者の身体的特徴					
3 回	高齢社会の理解、高齢化社会と高齢社会、高齢化の要因、ジェロントロジーとは					
4 回	介助の心構え、ホスピタリティ・マインド、接遇、ノーマライゼーションの必要性、障がいの種類					
5 回	車いす基本操作① 各部の名称、広げ方・たたみ方、3大注意点 (声かけ・足台・ブレーキ)					
6 回	車いす基本操作② 段差、スロープ、狭い道、自走体験、斜め道、持ち上げ					
7 回	杖・片まひ歩行の方への介助、着脱訓練、車椅子への移乗方法					
8 回	アイマスク体験、手引きの基本姿勢、手引きの方法①					
9 回	アイマスク体験、手引きの基本姿勢、手引きの方法②					
10 回	クロックポジション、金銭の受け渡し①					
11 回	クロックポジション、金銭の受け渡し②					
12 回	視覚障がいの概要、点字ブロック、白杖の役割					
13 回	聴覚障がいの概要、コミュニケーションの方法、具体的な介助方法、身体障害者補助犬法					
14 回	バリアフリー、ユニバーサルデザイン、関連法規 (交通バリアフリー法、ハートビル法など)					
15 回	実技チェック、検定試験についての概要説明、検定試験(筆記)対策、まとめ					
試験等	学年末試験を実施 (検定試験)					
[成績評価]						
<p>課題評価点 (提出物の評価) : 40%、受講態度 : 40%、実技・検定試験 : 20%</p> <p>※サービス介助士検定の合格・不合格とは別に、成績評価をする。</p>						
[準備学習 (予習・復習等) の内容]						
<p>授業の空き時間や自宅学習を利用して資格取得に必要な課題を行い、提出する (提出締切は8回目の授業)。</p> <p>また、毎週配付するワークシートを復習に利用すること。</p>						
	書名	著者	出版社			
テキスト	サービス介助士	サービス介助士				
	検定取得講座テキスト	検定取得講座テキスト編集委員会	日本ケアフィット共育機構			
参考文献						
[備考]						
<ul style="list-style-type: none"> この授業は、日本ケアフィット共育機構のインストラクターと小泉の2名で実施する。 検定試験に不合格の場合は、修了証が発行され、実費負担で一般受験会場での再試験が受けられる (¥3,240)。 質問は、オフィスアワー (時間は研究室前に掲示) かメールで受け付ける。koizumi@shohoku.ac.jp 						

科目名 (英語名)	色彩学A COLOR COORDINATION		科目コード 252050	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 色彩検定試験の受験に合わせて、全15回を6月下旬に終了するよう半集中授業の形式をとります。						
[授業の具体的到達目標] 色彩学の基礎を学ぶとともに、色彩検定3級合格のための知識を身に付けます。						
[授業の概要] この授業では、色彩検定試験に対応した講義を中心に進めていきます。同時に演習を並行しながら色に対する理解を深めると共に、検定対策のためのワークシート(模擬テスト等)を配布し色彩検定合格を目指します。						
[授業計画]						[担当]
1回	光と色 色が見える仕組み					
2回	光と色 眼および脳の構造					
3回	光と色 混色の原理					
4回	色の表示 色の三属性					
5回	色と表示 表色体系 (PCCS表色系)					
6回	色と表示 表色体系 (マンセル表色系)					
7回	色と表示 言葉による色表示					
8回	色彩心理 色の心理的効果					
9回	色彩心理 色の知覚的効果					
10回	色彩調和 色相配色とトーン配色					
11回	色彩調和 配色演習①					
12回	色彩調和 配色演習②					
13回	ファッションと色彩					
14回	インテリアと色彩					
15回	総復習					
試験等	期末試験を実施					
[成績評価] 課題(ワークシート)提出50%・期末試験50%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 授業内で説明した重要箇所や内容は、毎回必ず復習し暗記すること。 自宅学習等でワークシートを作成、解答を確認し検定対策に役立てること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	色彩検定公式テキスト3級編	公益財団法人色彩検定協会				
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設けています。 検定試験受験は任意で、必須条件ではありません。						

科目名 (英語名)	色彩学B COLOR COORDINATION		科目コード 252050	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] ファッションコース必修科目です。 色彩検定試験の受験に合わせて、全15回を11月上旬に終了するよう半集中授業の形式をとります						
[授業の具体的到達目標] 色彩学の基礎を学ぶとともに、色彩検定3級合格のための知識を身に付けます。						
[授業の概要] この授業では、色彩検定試験に対応した講義を中心に進めていきます。同時に演習を並行しながら色に対する理解を深めると共に、検定対策のためのワークシート(模擬テスト等)を配布し色彩検定合格を目指します。						
[授業計画]						[担当]
1回	光と色 色が見える仕組み					
2回	光と色 眼および脳の構造					
3回	光と色 混色の原理					
4回	色の表示 色の三属性					
5回	色と表示 表色体系 (PCCS表色系)					
6回	色と表示 表色体系 (マンセル表色系)					
7回	色と表示 言葉による色表示					
8回	色彩心理 色の心理的効果					
9回	色彩心理 色の知覚的効果					
10回	色彩調和 色相配色とトーン配色					
11回	色彩調和 配色演習①					
12回	色彩調和 配色演習②					
13回	ファッションと色彩					
14回	インテリアと色彩					
15回	総復習					
試験等	期末試験を実施					
[成績評価] 課題(ワークシート)提出50%・期末試験50%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 授業内で説明した重要箇所や内容は、毎回必ず復習し暗記すること。 自宅学習等でワークシートを作成、解答を確認し検定対策に役立てること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	色彩検定公式テキスト3級編	公益財団法人色彩検定協会				
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設けています。 検定試験受験は任意で、必須条件ではありません。						

科目名 (英語名)	ファッション基礎実験 DYEING AND DETERGENT TEST		科目コード 282055	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	前期	授業方法	実験・実習	
[履修条件、準備等] ファッションコース必修科目です。 実験にふさわしい服装で受講して下さい。						
[授業の具体的到達目標] 洗剤、洗濯、色落ちに関する知識について実験を通して学ぶとともに、衣服に対する適切な取り扱いを身に付けます。						
[授業の概要] この授業では、洗剤の働きを理解し洗浄力試験法や洗濯に付随する仕上げ効果の実験方法を学習します。						
[授業計画]						[担当]
1回	実験上の心構えと諸注意					
2回	洗剤液のpH					
3回	洗剤の浸透力					
4回	乳化と分散					
5回	起泡力					
6回	洗剤水溶液の濃度					
7回	布別による燃焼試験					
8回	洗濯けんろう度試験					
9回	洗浄力試験—洗濯温度の影響					
10回	洗浄力試験—浴比の効果					
11回	機械作用の評価法					
12回	漂白					
13回	糊付け					
14回	しみ抜き					
15回	しみ抜き					
試験等	レポート提出					
[成績評価] レポート80%、実験技術20%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 実験前にテキストを読み予習すること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	被服整理学	日本衣料管理協会刊行委員会編	日本衣料管理協会			
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設けています。						

科目名 (英語名)	子供服と小物の演習A DRESS&GOODS FOR KIDS A		科目コード 222060	(ふりがな) 担当者 おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	前期	授業方法	演習
[履修条件、準備等] ファッションコース必修 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。					
[授業の具体的到達目標] 子供服を製作することにより、衣服の構成や製作工程、縫製技術の基本を学び、大人用衣服への入門とします。 ワンピースやエコバックで使用する布を自分で買いに行くことにより、様々な種類の布を実際に手に取り、目的にあった布を選ぶことを学びます。					
[授業の概要] 子供のための服や小物について演習します。 快適で健康な生活を送るために、具体的に子供のための服や小物を設計・製作することを学びます。子供の身体的特徴やサイズ、デザインなどを、実際に製作することで考えていきます。					
[授業計画]					[担当]
1回	ガイダンス	(ワンピース用の布の説明・2回目までに自分で買ってくる)	型紙をつくる		太田
2回	女の子用のワンピースの製作	裁断・印しつけ1			太田
3回		裁断・印しつけ2			太田
4回		スカートの袋縫い(前・後ろ中心、脇)			太田
5回		スカートの袋縫い(前・後ろ中心、脇)	身頃の脇縫い		太田
6回		身頃を縫い合わせる(しつけ)			太田
7回		身頃を縫い合わせる(ミシン縫い)			太田
8回		見返しの始末・すその始末			太田
9回		ポケット・スナップボタンつけ・仕上げアイロン・提出			太田
10回	エコバックの製作	型紙をつくる			太田
11回		縫製			太田
12回		縫製・仕上げ・提出			太田
13回	グループワーク	布・毛糸・ビーズなどを使って絵をつくろう (テーマ決め・材料の見積もり)			太田
14回		製作			太田
15回		製作・振り返りシートの記入・発表			太田
試験等	試験は行いません。製作物、振り返りシートで評価します。				
[成績評価] 授業への取り組み方 50%、製作物 50% 製作物はきれいに仕上げただけでなく、不器用でも一生懸命、頑張ったかという点も考慮して評価します。					
[準備学習(予習・復習等)の内容] 実際にワンピース・エコバックなどを製作する演習の授業です。 ワンピース・エコバックに使用する布は自分で買いに行ってもらいます。					
	書名	著者	出版社		
テキスト	特になし				
参考文献	特になし				
[備考] オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp					

科目名 (英語名)	子供服と小物の演習B DRESS&GOODS FOR KIDS B		科目コード 222060	(ふりがな) 担当者 おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	後期	授業方法	演習
[履修条件、準備等] 子どもサービスコースのみ選択可 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。					
[授業の具体的到達目標] 子供用のワンピースを製作します。 ワンピースや通園バッグで使用する布を自分で買いに行くことにより、様々な種類の布を実際に手に取り、目的にあった布を選ぶことを学びます。					
[授業の概要] 子供のための服や小物について演習します。 快適で健康な生活を送るために、具体的に子供のための服や小物を設計・製作することを学びます。子供の身体的特徴やサイズ、デザインなどを、実際に製作することで考えていきます。					
[授業計画]					[担当]
1回	ガイダンス	(ワンピース用の布の説明・2回目までに自分で買ってくる)	型紙をつくる		太田
2回	女の子用のワンピースの製作	裁断・印しつけ1			太田
3回		裁断・印しつけ2			太田
4回		スカートの袋縫い(前・後ろ中心、脇)			太田
5回		スカートの袋縫い(前・後ろ中心、脇)	身頃の脇縫い		太田
6回		身頃を縫い合わせる(しつけ)			太田
7回		身頃を縫い合わせる(ミシン縫い)			太田
8回		見返しの始末・すその始末			太田
9回		ポケット・スナップボタンつけ・仕上げアイロン・提出			太田
10回	通園バッグの製作	型紙をつくる			太田
11回		縫製			太田
12回		縫製・仕上げ・提出			太田
13回	グループワーク	布・毛糸・ビーズなどを使って絵をつくろう (テーマ決め・材料の見積もり)			太田
14回		製作			太田
15回		製作・振り返りシートの記入・発表			太田
試験等	試験は行いません。製作物、振り返りシートで評価します。				
[成績評価] 授業への取り組み方 50%、製作物 50% 製作物はきれいに仕上げただけでなく、不器用でも一生懸命、頑張ったかという点も考慮して評価します。					
[準備学習(予習・復習等)の内容] 実際にワンピース・通園バッグなどを製作する演習の授業です。 ワンピース・通園バッグに使用する布は自分で買いに行ってもらいます。					
	書名	著者	出版社		
テキスト	特になし				
参考文献	特になし				
[備考] オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp					

科目名 (英語名)	ファッションデザイン論 FASHION DESIGN		科目コード	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤
			222070			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] ファッションコース必修科目です。 ファッション雑誌を数冊用意してください。						
[授業の具体的到達目標] ファッションデザインの基礎知識について理解し、平面・立体ファッションデザインの演習を行うことでオリジナリティーのある表現力を身に付けます。						
[授業の概要] この授業では、ファッションデザインの基礎知識である造形原理やその歴史について習得した上で、東アフリカのテキスタイルであるカンガを用いた立体デザイン制作や、平面デザインであるファッションデザイン画制作を行います。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	ファッションとデザイン①ーデザインの意義・デザインジャンル					
3回	ファッションとデザイン②ー形態・色彩・材料					
4回	ファッションと造形原理①ー造形要素					
5回	ファッションと造形原理②ー線と面・シルエット・錯覚					
6回	立体ファッションデザイン①ーカンガを用いた立体デザイン演習					
7回	立体ファッションデザイン②ーレポート作成					
8回	ファッションデザインと発想					
9回	ファッションショー参加					
10回	ファッションと流行					
11回	日本・西洋服装史					
12回	平面ファッションデザイン①ーファッションデザイン画・テーマ検討					
13回	平面ファッションデザイン②ー製図作成					
14回	平面ファッションデザイン③ー色彩選択					
15回	平面ファッションデザイン③ー仕上げ・講評					
試験等	期末試験およびレポート・課題提出					
[成績評価] 期末試験 50%、レポート 20%、課題 30%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] ファッションに関する新聞・雑誌の記事に興味を持ち自身の意見や感想をまとめておく。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリントを配布					
参考文献	文化ファッション講座デザイン	文化服装学院編	文化出版局			
[備考] オフィスアワーを設けています。 この授業では、適宜ビデオやスライド画像を用います。						

科目名 (英語名)	カラーとクラフト COLOR AND CRAFT		科目コード 285085	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	後期	授業方法	実験・実習	
[履修条件、準備等] ファッションコースのみ履修可能です。						
[授業の具体的到達目標] 色彩学の基礎的知識を活用してパーソナルカラーを学び、個性に調和する色彩の扱い方を習得していきます。同時に、色彩調和を用いたクラフト制作を行うことでカラーの実践的な表現力を身に付けます。						
[授業の概要] この授業では、自分に似合う色を探るパーソナルカラーについての知識を学習した上でファッションデザイン画を作成してパーソナルカラーコーディネート実習を行います。また、色彩配色調和を用い、日本の伝統的手工芸品である「つまみ細工」制作を行っていきます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	色彩学の基礎					
3回	パーソナルカラーとは					
4回	パーソナルカラー実習①4シーズン別色分類					
5回	パーソナルカラー実習②4シーズン別メイク&ヘアカラー分類					
6回	パーソナルカラー実習③カラードレーブを使用した自身に似合うパーソナルカラー選定					
7回	ファッションデザイン画を用いたパーソナルカラー実習①色の選定					
8回	ファッションデザイン画を用いたパーソナルカラー実習②仕上げ					
9回	色彩配色調和論					
10回	色彩調和を用いたつまみ細工制作①デザイン構想					
11回	色彩調和を用いたつまみ細工制作②丸つまみで作るヘアアクセサリ					
12回	色彩調和を用いたつまみ細工制作③丸つまみで作るヘアアクセサリ					
13回	色彩調和を用いたつまみ細工制作④剣つまみで作るブローチ					
14回	色彩調和を用いたつまみ細工制作⑤剣つまみで作るブローチ					
15回	作品講評					
試験等	課題提出					
[成績評価] 課題50%・受講態度50%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 身近な事象から美しい配色を意識して観察し、まとめておく。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	パーソナルカラーワークブック	伊熊知子	BMBジャパン			
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設けています。						

科目名 (英語名)	ファッション販売論 APPAREL RETAIL		科目コード 222090	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] ファッション販売やアパレル業界に興味がある学生を対象としています。						
[授業の具体的到達目標] ファッション販売についての実務や技術を学ぶとともに、ファッション販売能力検定試験 3 級合格のための知識を身に付けます。						
[授業の概要] この授業では、ファッション販売能力検定に対応した講義を中心に進めていきます。具体的には試験問題集を用いた問題に取り組み、それらについての解説を行います。同時に、随時小テストを実施して理解度を深め、検定合格を目指します。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	ファッション販売①ファッションとは何か					
3回	ファッション販売②ファッション小売業と店舗					
4回	ファッション・マーケティング①マーケティングおよびリテリング基礎知識					
5回	ファッション・マーケティング②販売スタッフと情報					
6回	ファッション販売業務①販売スタッフの事務業務					
7回	ファッション販売業務②販売スタッフの商品管理					
8回	ファッション販売技術①販売スタッフの基本マナー					
9回	ファッション販売技術②購買心理の理解					
10回	ファッション販売技術③接客の基本動作とセールステクニック					
11回	店舗演出・VP 展開①店舗の環境と演出					
12回	店舗演出・VP 展開②着こなし方の提案・陳列					
13回	ファッション商品①アイテム・素材・色彩の知識					
14回	ファッション商品②サイズ・品質管理の知識					
15回	ファッション販売と情報					
試験等	期末試験を実施					
[成績評価] 期末試験 50%、小テスト 50%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 授業内で説明した重要箇所や内容は、毎回必ず復習し暗記すること。 授業時間外に問題集に取り組むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	ファッション販売能力検定試験問題集3級 改訂版		日本ファッション教育振興会			
	ファッション販売 I 改訂版		日本ファッション教育振興会			
参考文献						
[備考] オフィスアワーを設けています。						

科目名 (英語名)	ファッションビジネス論		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤
	Fashion business		282660			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義・演習		
[履修条件、準備等] ファッションコース、子どもサービスコースの学生が選択出来ます。 前期のファッション販売論を受講していることが望ましいです。 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。						
[授業の具体的到達目標] ファッション販売能力検定2級の合格を目指します。(前期に3級不合格の者は、再度3級にチャレンジも可) アパレル業界に必要なビジネススキルを身につけることを目的とします。						
[授業の概要] ファッション販売能力検定2級の内容に加え、アパレル企業の人事・研修担当の方にお越しいただき、実際の現場や接客の基本を理解したり、アパレルで働いている卒業生による指導により、331教室のSHOPコーナーでロールプレイングを行ったりします。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス	ファッション販売能力検定3級の範囲の復習				太田
2回	ファッション販売知識	ビジネスの知識、小売業の構造と特性				太田
3回		お客様に関する知識、コーディネート、トレンド				太田
4回		企業人の基本、コンセプト、商品企画の知識				太田
5回	ファッションマーケティングの知識	プロモーション、情報マネジメント				太田
6回	ファッション販売業務	販売の意味、中堅スタッフの仕事				太田
7回		商品管理、販売スタッフの事務、お店での計数知識				太田
8回	ファッション販売技術	購買心理の理解、お客様への対応の仕方				太田
9回		顧客とは？顧客の作り方、クレーム対応				太田
10回	店舗演出・VP展開	売り場作り、照明・色彩計画、ストックルームの管理				太田
11回	ファッション商品知識	素材、ディテール				太田
12回		柄、色彩、サイズの知識				太田
13回	SHOPでの対応の仕方	ロールプレイング①				太田
14回		ロールプレイング②				太田
15回	まとめ					太田
試験等						
[成績評価] 授業への取り組み方 30%、小テスト 20%、期末試験 50%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 毎回、ファッション販売能力検定試験問題集2級の中から宿題を出します。授業の冒頭で、その範囲内の小テストを行います。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	ファッション販売Ⅱ		日本ファッション教育振興協会			
	ファッション販売能力検定試験問題集2級		日本ファッション教育振興協会			
参考文献	ファッション販売Ⅰ		日本ファッション教育振興協会			
	ファッション販売能力検定試験問題集3級		日本ファッション教育振興協会			
[備考] オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	ラッピングコーディネート演習 WRAPPING COORDINATES		科目コード 222095	(ふりがな) 担当者	おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	後期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] カッター、はさみ、両面テープ (1cm幅)、セロテープを持参のこと。						
[授業の具体的到達目標] ラッピングコーディネーターの取得を目指しています。毎回違う包み方を演習します。遅刻・欠席をすると試験範囲の包み方をマスターできませんので、必ず出席してください。						
[授業の概要] 接客サービス職などで必要な様々なラッピング技法を学びます。 受講するとラッピングコーディネーターの資格認定試験(ラッピング協会)を受けることができます。 (希望者のみ。有料。学内で実施)						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					太田、協会
2回	オリジナルカードの作成					太田、協会
3回	ハート型ボックスの作成、贈り物の種類・水引の種類					太田、協会
4回	不織布を用いたラッピング・カーリングリボン・・・タオルまたはTシャツなど包むものを用意すること					太田、協会
5回	ラッピングの基礎 合わせ包み、リボン(横一文字・縦一文字)					太田、協会
6回	ピローボックス、マチなし袋、テトラ					太田、協会
7回	ピーコック、リボン(縦一文字)、マチあり袋					太田、協会
8回	円筒形の合わせ包み、リボン(V字掛け)					太田、協会
9回	タック、シールリボン					太田、協会
10回	斜め包み、表裏ありリボン(横一文字、斜め掛け)					太田、協会
11回	ふろしき包み、表裏ありリボン(十字掛け)					太田、協会
12回	認定試験範囲の復習、筆記試験の説明					太田、協会
13回	認定試験範囲の復習(ピローボックス、円筒形、表裏ありリボン)					太田、協会
14回	認定試験範囲の復習(斜め包み、ふろしき包み、表裏ありリボン)					太田、協会
15回	認定試験範囲の復習(全4種類)					太田、協会
試験等	資格認定試験あり。受けない学生にはレポート課題					太田、協会
[成績評価] 授業への取り組み方 50%、認定試験受験者・・・筆記試験の点数 50% 認定試験受けない学生・・・レポート 50%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] ラッピングは“慣れ”が重要なので、毎回復習して手に覚えさせてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	ラッピング・マニュアル	ラッピング協会編	食品研究社			
参考文献	特になし					
[備考] 上記以外の担当者(ラッピング協会認定講師2名、アシスタント2名) テキストは授業内で販売します。 オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	ファッションと生活 FASHION AND LIFE		科目コード 222105	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] ファッションに興味のある学生を対象としています。						
[授業の具体的到達目標] ファッションの構成要素とその機能や役割についての知識を習得します。また、ファッションと重要な関わりのある社会背景やアパレル産業の知識を学び、自身のファッションビジネスにおけるキャリアプラン構築を目指します。						
[授業の概要] この授業では、ファッションの形、色、素材、洗濯の方法などの諸分野や、現代ファッションとその背景にある人々の生活や社会背景についての講義を行います。同時に、アパレル産業における仕組みについて学びながら、自身のファッションビジネスにおけるキャリアプランを企画してレポートにまとめます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	ファッションとは					
3回	ファッションと生活①衣服の造形					
4回	ファッションと生活②衣服と色彩					
5回	ファッションと生活③衣服の素材・管理					
6回	現代ファッションの変遷と社会背景①1950～60年代					
7回	現代ファッションの変遷と社会背景②1970～80年代					
8回	現代ファッションの変遷と社会背景③1990～2000年代					
9回	現代社会とビジネス知識ー仕事と会社					
10回	ファッションビジネスとはーファッションビジネスの定義					
11回	ファッションにまつわる産業とその位置づけ					
12回	ファッション産業の構造①テキスタイル産業の構造					
13回	ファッション産業の構造②アパレル産業の構造					
14回	ファッション産業の構造③ファッション小売業の構造					
15回	ファッションビジネスにおけるキャリアプランニングー自身に合った職種を探る					
試験等	期末試験を実施					
[成績評価] レポート提出 50%・期末試験 50%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] ファッションに関する新聞・雑誌の記事に興味を持ち、自身の意見や感想をまとめておく。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリントを配布					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設けています。 この授業では、適宜ビデオやスライド画像を用います。						

科目名 (英語名)	食物と健康 Food and Health		科目コード 252160	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] フードコースの必修科目です。初回からテキストを使用しますので準備して下さい。 自分の食生活を見直していく姿勢で取り組むことで、現在と将来に役立てていくことが望めます。						
[授業の具体的到達目標] ①「食事バランスガイド」を活用した食生活の振り返りができる。献立を考えることができる。 ②日常的に摂取する食物について、その主要成分と関連付けて理解している。 ③健康と食事との関係を理解して、自分の食生活を改善できる。						
[授業の概要] 健康で豊かな生活を送るために、身につけておきたい食物と健康に関する基礎知識、考え方を学ぶ内容です。 食物については、成分の特徴を知ること、食生活上の必要性を科学的に理解します。健康に関する内容では、社会的に問題になっている事例も取り上げていきます。						
[授業計画]						[担当]
1回	日常の食事：食事バランスガイドの理解					吉川
2回	主食とエネルギー摂取		主要成分「糖質」			吉川
3回	肉・魚を食べる意味とは		主要成分「タンパク質」「脂質」			吉川
4回	野菜と果物を食べていますか？		野菜類の主要成分「ビタミン」「ミネラル」「機能性成分」			吉川
5回	食の安全 “食中毒”を出さないための知識					吉川
6回	自分たちの食生活——今、自分は何をどのように食べているか（食べ方を振り返る）					布施
7回	食と健康の情報——情報の受け取り方を考える					布施
8回	「ダイエット」——本当の意味、良い方法とは					布施
9回	血液と食事の関係——しっかり食べて「良い血液」に					布施
10回	骨の健康——骨は若いうちに造る					布施
11回	生活習慣病——予防は今から。良い習慣をつける					布施
12回	歯の健康——食べるためには、まず歯が必要					布施
13回	ガンと食生活——予防に役立つ食事のポイント					布施
14回	喫煙と健康——多くのガンの原因は、たばこ					布施
15回	アルコールとの上手な付き合い方——お酒で人生を狂わせないために					布施
試験等						
[成績評価] 吉川 (35%)、布施 (65%)、として合算する。 期末試験 (30%)、提出物 (5%)、——吉川 期末試験 (50%)、提出物 (10%)、受講態度 (5%) ——布施						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 配布プリントは別の回でも使用する場合がありますので、きちんと管理して毎回持参する事 (布施)						
	書名		著者		出版社	
テキスト	新選 食品成分表 三訂版		実教出版編修部		実教出版	
	食事と健康の科学		池本真二 他		建帛社	
参考文献						
[備考] 上記以外の担当者：布施 眞里子 (非常勤) 上記2冊のテキストは1年後期の「食品学」でも同じものを使用します。 オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。(吉川) 質問がある場合は授業終了後等に教室で受け付けます。(布施)						

科目名 (英語名)	トータルクッキングIA (Cooking IA)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			232165			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	実習		
[履修条件、準備等] フードコースの学生むけの科目です。食材費(全回分6000円)および指定のエプロンと三角きんの購入費用(3000円程度)が必要です。食材費は初回に準備してきてください。 実習では毎回ハンドタオルを用意してください。マニキュア、長い爪では受講できません。						
[授業の具体的到達目標] 和食の基本的な食材についてその取扱いや調理上の特徴を理解している。基本の調理操作ができる。 主食、主菜、副菜を取り合わせた食事を作ることができる。食中毒を防ぐための日常の衛生管理ができる。						
[授業の概要] 日常食の調理実習です。基本の操作、食品の取り扱いと調理特性、器具の使用方法などについて学びます。 2コマ連続(3時間)で休憩をはさまない実習です。						
[授業計画]						[担当]
1回	実習における留意点について 班わけ、器具整備			[料理のポイント ねらい]		
2回	実習1:白飯、味噌汁、肉じゃが、青菜の胡麻和え			[炊飯操作、だしをとる、煮物の味付け]		
3回	実習2:白飯、味噌汁、煮魚、茶碗むし			[煮魚の要点、卵液の蒸し物1]		
4回	実習3:パウンドケーキ、クッキー			[製菓の基本操作1、小麦粉生地の特徴と扱い]		
5回	実習4:炊き込み飯、天ぷら、かきたま汁			[味付け飯、揚げ物の要点]		
6回	実習5:ちらし寿司、すまし汁、果汁かん			[すし飯の調製、寒天の調理]		
7回	実習6:巻き寿司、白玉団子			[巻き寿司の要点、白玉粉の扱い]		
8回	実習7:白飯、焼き魚、乾物の煮物、けんちん汁			[魚の下処理、乾物の扱い、郷土料理]		
9回	実習8:白飯、魚のフライ、スープ、カスタードプリン			[魚の三枚おろし、カラメル調製]		
10回	実習9:グラタン、サラダ、果汁ゼリー			[ホワイトソースの調製、ゼラチンの調理]		
11回	実習10:マドレーヌ、黒糖饅頭、実習12の計画立案			[製菓の基本操作2、小麦粉生地の膨化]		
12回	実習11:枝豆ご飯、ロールキャベツ、サラダ			[塩味飯、挽肉の調理、ドレッシング]		
13回	実習12:行楽用の弁当			[各班で献立立案、調理]		
14回	実習13:白飯、餃子、スープ、和え物、杏仁豆腐			[中華風料理の献立]		
15回	実習14:パスタ、電子レンジ調理 調理室整備、大掃除			[パスタの調理、スピーディな調理]		
試験等	実習レポートをまとめる					
[成績評価] 毎回の振り返りシートの記入(60%) 課題(10%) 実習レポート(30%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 習ったことを定着させるために、自宅で復習することを推奨します。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談に来てください。						

科目名 (英語名)	トータルクッキングIB (Cooking IB)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			232165			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	実習		
[履修条件、準備等] フードコース以外の学生むけの科目です。1クラスの受講可能人数(32人)を超えた場合は抽選をおこないます。 食材費(全回分で6000円)を初回に準備してきてください。2回目以降は、エプロン、三角きん、ハンドタオルが必要です。マニキュア、長い爪では受講できません。						
[授業の具体的到達目標] 和食の基本的な食材についてその取扱いや調理上の特徴を理解している。基本の調理操作ができる。 主食、主菜、副菜を取り合わせた食事を作ることができる。食中毒を防ぐための日常の衛生管理ができる。						
[授業の概要] 日常食の調理実習です。基本の操作、食品の取り扱いと調理特性、器具の使用方法などについて学びます。 2コマ連続(3時間)で休憩をはさまない実習です。						
[授業計画]						[担当]
1回	実習における留意点について 班わけ、器具整備			[料理のポイント ねらい]		
2回	実習1:白飯、味噌汁、肉じゃが、青菜の胡麻和え			[炊飯操作、だしをとる、煮物の味付け]		
3回	実習2:白飯、味噌汁、煮魚、茶碗むし			[煮魚の要点、卵液の蒸し物1]		
4回	実習3:パウンドケーキ、クッキー			[製菓の基本操作1、小麦粉生地の特徴と扱い]		
5回	実習4:炊き込み飯、天ぷら、かきたま汁			[味付け飯、揚げ物の要点1]		
6回	実習5:ちらし寿司、すまし汁、果汁かん			[すし飯の調製、寒天の調理]		
7回	実習6:巻き寿司、白玉団子			[巻き寿司の要点、白玉粉の扱い]		
8回	実習7:白飯、焼き魚、乾物の煮物、けんちん汁			[魚の下処理、乾物の扱い、郷土料理]		
9回	実習8:白飯、フライ、スープ、カスタードプリン			[揚げ物の要点2、カラメル調製]		
10回	実習9:グラタン、サラダ、果汁ゼリー			[ホワイトソースの調製、ゼラチンの調理]		
11回	実習10:マドレーヌ、黒糖饅頭、実習12の計画立案			[製菓の基本操作2、小麦粉生地の膨化]		
12回	実習11:枝豆ご飯、ロールキャベツ、サラダ			[塩味飯、挽肉の調理、ドレッシング]		
13回	実習12:行楽用の弁当			[各班で献立立案、調理]		
14回	実習13:白飯、餃子、スープ、和え物、杏仁豆腐			[中華風料理の献立]		
15回	実習14:パスタ、電子レンジ調理 調理室整備、大掃除			[パスタの調理、スピーディな調理]		
試験等	実習レポートをまとめる					
[成績評価] 毎回の振り返りシートの記入(60%) 課題(10%) 実習レポート(30%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 習ったことを定着させるために、自宅で復習することを推奨します。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談に来てください。						

科目名 (英語名)	フードコーディネート基礎 Basics of Food Coordination		科目コード 282170	(ふりがな) 担当者	こおりやま たかこ 郡山 貴子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等]						
[授業の具体的到達目標] ホームパーティの企画書作りを通じて、メニュープランニング、テーブルコーディネート、空間コーディネート、6W1Hの設定を自分なりに考え、表現することができるようになる。						
[授業の概要] フードコーディネートは献立の内容だけでなく、盛り付ける器やテーブルセッティング、それを食するためのマナーや空間の演出など幅広い領域に関わるものである。本講座では、主に日本・西洋・中国の食事様式についてテキスト以外にもスライド映写などを交えて学んでいく。また、サービスの提供者と顧客としての両視点から食シーンでのサービスとマナーのあり方やテーブルウエアについて学び、実生活に生かせるように促す。そして、企画立案の実践的な力をつけるため、コンセプトプランニングおよびメニュー構成やレシピ、食卓演出などを含むオリジナルプランの作成を課題とする。 (下記のスケジュールは、課題の進捗状況により、内容、順番が変更になる可能性があります)						
[授業計画]						[担当]
1回	フードコーディネートの基本理念と領域					
2回	世界の食事メニュー構成 ～日本の食事様式～					
3回	世界の食事メニュー構成 ～西洋の食事様式～					
4回	世界の食事メニュー構成 ～中国その他の食事様式～					
5回	テーブルコーディネートの基本					
6回	テーブルウエアの基礎知識					
7回	サービスとマナー ①					
8回	サービスとマナー ②					
9回	食空間のコーディネート					
10回	コンセプトプランニング / 課題「我が家のホームパーティ企画を考える」					
11回	メニュープランニング / 課題「ホームパーティ用のメニューを考える」					
12回	フードマネジメント / 課題「レシピの書き方と原価計算」					
13回	企画立案とフードコーディネーション / 課題「メニュー構成を考える」					
14回	食を取り巻く環境・情報・課題 / 課題「食卓演出とトータルコーディネーション」					
15回	まとめ					
試験等	課題をまとめて提出					
[成績評価] 振り返りシート40% 課題の評価(プレゼン、レポート)60%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 事前に指定される教科書の該当箇所を読んだ上で授業に臨むこと						
	書名	著者	出版社			
テキスト	フードコーディネーター教本2016	日本フードコーディネーター協会	柴田書店			
参考文献						
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	栄養学 I Nutrition Science I		科目コード 282180	(ふりがな) 担当者	はやし のりこ 林 典子	専任・非常勤 専任
	2 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 中学および高校で履修した家庭科、化学、生物などでの栄養に関わる分野を復習しておく。						
[授業の具体的到達目標] 食品のなかに含まれる栄養素が食事をすることによって身体にとりこまれ、自分たちの身体のなかでどのようにはたらいているのかを理解する。学んだ知識から自分の食事摂取方法や健康管理に応用することができる。						
[授業の概要] 私たちの健康にとって大切な栄養成分はどのような物質か、その特徴、また体内での消化・吸収の仕組み、さらにそれらが自分たちの体にどのように役立つのか、各栄養素の代謝とその価値について学ぶ。それをもとに、自分の健康にとって何をどのように摂取すると良いかを考察する。						
[授業計画]						[担当]
1 回	栄養の概念、健康と疾患について					林
2 回	人体のしくみと構造					林
3 回	日本人の食事摂取基準(2015)と栄養素の必要量					林
4 回	炭水化物の種類、特徴、機能					林
5 回	脂質の種類、特徴、機能					林
6 回	たんぱく質の構造、種類、機能					林
7 回	たんぱく質 - 食物アレルギーのアレルゲン					林
8 回	無機質の種類と特徴					林
9 回	ビタミン類の種類、生理作用①					林
10 回	ビタミン類の種類、生理作用②					林
11 回	栄養素消化、吸収、代謝					林
12 回	エネルギー消費、基礎代謝(自分の1日のエネルギー消費量を調査・レポート提出)					林
13 回	機能性成分 - 食物繊維の働き、抗酸化性物質の作用、特定保健用食品					林
14 回	生活習慣病と栄養 - 栄養素・食品摂取上の注意					林
15 回	免疫と栄養 - 食物アレルギー					林
試験等	期末試験					林
[成績評価] 期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)で評価する						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 前回までの授業の復習として小テストを行うことがあります。範囲は事前に告知するので必ず復習してくること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	基礎栄養学		飯塚美和子 ほか		南山堂	
	症例を通して学ぶ 食物アレルギーのすべて		海老澤元宏(編)		南山堂	
[備考] 必要に応じてパワーポイントを使用し、補助教材としてプリントを配付します。 オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談にきて下さい。						

科目名 (英語名)	食品学 Food Materials		科目コード 222175	(ふりがな) 担当者	(ふせ まりこ) 布施 眞里子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 予習としてレポートを作成し、授業時間中に発表することがある。						
[授業の具体的到達目標] ①各種食品類について、その食品類の特徴となる成分や加工品などの知識を得る。 ②食品についてレポート作成して行く過程で、食品成分表や各種資料の活用の仕方を学ぶ。 ③販売されている食品の表示がどのようなものであるか調査して、表示の基本を知る。 ④グループで行なう学習を通じて、協力して学びを深める力をつける。						
[授業の概要] よく食べる食品でも、どのように作られるのか、動物・植物のどこの部分を食べているのか、栄養的にはどのような利点があるのかなど、知らないことも多い。食品について知識を持つことで食生活を豊かにし、また健康維持に役立つようにする。						
[授業計画]						[担当]
1回	食品の分類の仕方、食品の成分について、食品成分表の見方					
2回	食品成分の知識1——炭水化物。穀類の特徴					
3回	芋類の特徴					
4回	穀類・芋類の加工食品（製粉、でんぷん、糖類）					
5回	食品成分の知識2——脂質。油脂類					
6回	教科書以外も参考にする学習の仕方。食品類の調査レポート作成について					
7回	種実類。豆類					
8回	野菜類。果実類					
9回	食品成分の知識3——たんぱく質。多く含む食品とその加工品					
10回	食肉類					
11回	卵類					
12回	乳類					
13回	魚介類					
14回	藻類、きのこ類					
15回	まとめ					
試験等						
[成績評価] 試験（50%）、レポート（40%）、受講態度（10%）で評価する						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 資料として配布するプリントは、教科書の内容を補完するものとして復習等に活用する事						
	書名	著者	出版社			
テキスト	新選 食品成分表 三訂版	実教出版編修部	実教出版			
	食事と健康の科学（第3版）	池本真二 他	建帛社			
参考文献						
[備考] 前期に「食物と健康」で使用したテキストを使う。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	トータルクッキングⅡ (Cooking Ⅱ)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			232215			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	実習		
[履修条件、準備等] フードコースのみ選択できます。食材費(全回分で約11,000円)が必要です。長い爪、マニキュアでは受講できません。実習の内容により、授業終了時刻が遅くなる回がありますが、その際も各班の後片付け終了まで協力して取り組むこと。						
[授業の具体的到達目標] パン・洋菓子の基本的な調理工程を習得できている。特殊な食材も含め、多種の食品の扱い方がわかる。 世界の食文化を理解し、その特徴をつかんでいる。自分の嗜好だけでなく目的にあった献立を立案することができる。 パソコンを使用して、料理の作り方を見やすくまとめることができる。						
[授業の概要] 実習は4人1班のグループで取り組み、世界各国の料理、供応食、パン・洋菓子の調理を行います。目的にあった献立を考え、グループで食材を準備して調理する機会が数回あります。 また、献立、スケジュールは変更になる場合があります。						
[授業計画]						[担当]
1回	器具整備、計量の基本	パン材料の計量、パン生地の説明				
2回	パン1	テーブルロール、ポテトサラダ、ミネストローネ				
3回	イタリア料理1	リゾット、カジキのソテー、ティラミス				
4回	パン2 洋菓子1	ハムロール(惣菜パン)、シュークリーム				
5回	パン3	シナモンロール(菓子パン)、 (第6回のプランニング)				
6回	イタリア料理2	アンティパスト、パスタ(班ごとのレシピで)、パンナコッタ				
7回	フランス料理	ポテトクリームスープ、子羊のソテー、デザート				
8回	スペイン料理	パエリア、スペインオムレツ、クレマカタラーナ				
9回	エスニック料理	ベトナム風生春巻き、ガパオライス、タピオカのデザート				
10回	洋菓子2	クリスマスケーキ				
11回	供応食1・洋菓子3(洋食の献立)	ローストチキン、サラダ、ラズベリームース				
12回	供応食2(和食の献立)	お正月の料理				
13回	韓国料理	チヂミ、ナムル、スープ				
14回	中華料理1	ピータン豆腐、酢豚、スープ、マンゴープリン (第15回のプランニング)				
15回	中華料理2、実習室整備	中華料理の点心 バイキングスタイルで				
試験等	実習レポートをまとめて提出					
[成績評価] 毎回の振り返りシートの記入(60%) 課題(10%) 実習レポート(30%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 各回の配布レシピは、Yドライブ「トータルクッキングⅡ」フォルダ内に保存してあります。予習、実習後のレポート作成に役立ててください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 2名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、オフィスアワー等 オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談に来てください。						

科目名 (英語名)	フードビジネス特講 (Food business)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			262610			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] フードコース、インテリアデザインコースの学生が履修可能です。フードコーディネーター3級の取得を目指す方には、推奨の科目です。2コマ連続で7.5回の授業で、開講日が変則的になりますので、初回で日程をお知らせします。都心のレストランでの見学、食事を伴う演習があり、費用(3,000円+交通費)が個人負担です。						
[授業の具体的到達目標] 食関連業界の仕事で必要とされる知識やサービスについて理解し、業務において何が必要とされるのかイメージすることができる。フードコーディネーターとして必要なフードビジネス業界の基礎知識を習得している。						
[授業の概要] 食関連業界で仕事をする上で必要なフードマーケットやレストランビジネスに関する基礎知識、フードビジネスにおいて求められるホスピタリティなどについて学ぶ。食の分野における様々な「企画」の魅力について学ぶ。課題として食品販売店舗のリサーチに取り組む。授業は実務に携わる専門講師を招いて特別講座(1回2コマ)として開講。						
[授業計画] *以下は、内容・順番に変更のある場合があります。						[担当]
1回	授業の概要、課題(食品販売店舗のリサーチ)の説明					[吉川]
2回	「食」のビジネスの概要 フードコーディネーターに必要な能力					[佐野]
3回	フードマーケットの動向					[佐野]
4回	レストランプロデュースの基本					[佐野]
5回	食の商品開発 メニュープランニング					[佐野]
6回	フードビジネスにおけるホスピタリティ					[佐野]
7回	フードビジネスにおけるホスピタリティ					[佐野]
8回	レストランのダイニングスペース、厨房の見学。 サービスを学ぶ(演習)					[佐野]
9回	レストランのダイニングスペース、厨房の見学。 サービスを学ぶ(演習)					[佐野]
10回	食品販売店舗リサーチ課題の発表					[吉川]
11回	食の企画(本、雑誌、商品開発の分野)					[土田]
12回	食の企画(本、雑誌、商品開発の分野)					[土田]
13回	食の企画(イベント、映像の分野)					[土田]
14回	食の企画(イベント、映像の分野)					[土田]
15回	まとめ					[吉川]
試験等						
[成績評価] 授業の振り返りシート(70%) 課題(30%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] テキストを使い、予習復習をする。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	フードコーディネーター教本2016 (フードコーディネーター論で使用)	日本フードコーディネーター協会	柴田書店			
参考文献	特になし					
[備考] 特別講師:佐野由美子((有)カメラエントラープライズ代表取締役、日本フードコーディネーター協会理事) 土田美登世(フードエディター、イベントディレクター) 他の特別講師も招くことがあります。 オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談にきてください。						

科目名 (英語名)	栄養学 II Nutrition Science II		科目コード 282200	(ふりがな) 担当者	はやし のりこ 林 典子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 前期に履修した栄養学 I で学んだ内容を復習しておく。						
[授業の具体的到達目標] ①ライフステージごとに配慮すべき栄養上の課題があることを理解し、その知識を習得する。 ②身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する						
[授業の概要] 身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する。妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期のライフステージにおける健康と栄養、および食生活の問題および望ましい食生活のあり方について学ぶ。講義中心だが、グループワークも取り入れる。						
[授業計画]						[担当]
1回	ライフステージと成長・発達、加齢(老化)について					林
2回	妊娠期の特性、栄養、食生活					林
3回	乳児期の特性、栄養					林
4回	乳児期の食生活					林
5回	幼児期の特性、栄養					林
6回	幼児期の食生活、集団給食					林
7回	乳幼児期の食の問題 - 食物アレルギーの社会的対応					林
8回	学童期の特性、栄養					林
9回	学童期の食生活、集団給食					林
10回	青年期の特性、食生活 - 摂食障害など					林
11回	自分自身の栄養摂取量の評価					林
12回	自分自身の栄養摂取量の評価と課題 発表					林
13回	成人期の特性、食生活 - 生活習慣病予防と食事					林
14回	更年期、高齢期の特性、食生活					林
15回	運動・スポーツと栄養					林
試験等						林
[成績評価] 期末試験(70%)、小テストおよび発表(20%)、受講態度(10%)で評価する						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 前回までの授業の復習として小テストを行うことがあります。範囲は事前に告知するので必ず復習してくること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	健康・栄養科学シリーズ 応用 栄養学	戸谷誠之 ほか	南江堂			
[備考] 必要に応じてパワーポイントを使用し、補助教材としてプリントを配付します。 オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談にきて下さい。						

科目名 (英語名)	食空間プランニング Food Space Planning		科目コード 262620	(ふりがな) 担当者	おおはしすみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] ・インテリアデザインコースとフードコースの学生が履修可能です。 ・フードコーディネーター3級取得を目指す方に推奨の科目です。						
[授業の具体的到達目標] ・住まいの食空間について、インテリアからテーブルコーディネートまで、提案できるようになる。 ・店舗の食空間について、運営形態にあった空間を提案できるようになる。						
[授業の概要] 「おいしい!」と感じるのは、お料理の内容や健康状態だけではなく、誰とどのような空間で食べているのかなど、「食事をする環境」が影響する。家族やお店を利用する人が「おいしい」「心地良い」と感じられる食空間のデザイン(空間構成・家具・テーブルコーディネート・運営など)の提案ができることを目指す。そのために、インテリアの基礎となるキッチンやテーブル椅子などの寸法や図面表記なども習得する。						
[授業計画] ※授業の進行によって内容を変更する場合がある						[担当]
1回	ガイダンス ・ おいしいとは?					
2回	火はどうやって家の中に入ってきたか、台所の移り行き					
3回	間取りと住生活を読む					
4回	住まいの共用空間1(キッチン)					
5回	住まいの共用空間2(キッチン・ダイニング・リビング)					
6回	住まいの共用空間3(キッチン・ダイニング・リビング)					
7回	色彩・照明・テーブルセッティング					
8回	店舗デザイン1					
9回	店舗デザイン2					
10回	振り返り・小テスト					
11回	実物に触れてみよう! LIXIL厚木ショールーム見学会					
12回	見学会レポートの発表					
13回	食空間の提案1 イメージ・コンセプト・運営・空間を考える					
14回	食空間の提案2 発表会1					
15回	食空間の提案3 発表会2					
試験等	なし					
[成績評価] 授業態度20%、小テスト60%、課題・レポート20% の総合評価とする。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 授業の内容を踏まえて提案できるように、十分に復習をして提案につなげてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	新版フードコーディネート教本 3級試験対応テキスト	日本フードコーディネーター協会	柴田書店			
	プリント配布					
参考文献	フードコーディネーター過去問 題集 3級資格認定試験	日本フードコーディネーター協会	柴田書店			
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出しますので、相談に来てください。						

科目名 (英語名)	環境と暮らし Theory of Dwelling		科目コード	(ふりがな) 担当者	みずがみゆたか 水上裕	専任・非常勤
			262245			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] 毎回A5判のプリント又はA4判2つ折りのプリントを配布するので、A5判のルーズリーフバインダー1冊を用意して下さい。						
[授業の具体的到達目標] 前半は、健康に暮らすための住まいと住まい方を身につけ、自分の住まい方をよりよくします。後半は住環境や住宅建築の理解を深め、安全に暮らすための知識や考え方を学びます。						
[授業の概要] 前半は人体の健康に影響を及ぼす身近な住環境について考察し、快適な室内環境を得るための判断力や実行力を身につけます。後半は安心・安全・安住に必要な知識や考え方を学びます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス/「住まいのミカタ」の見方					
2回	住まいの現状/住み心地のいい部屋/快適に暮らすコツ					
3回	健康的な住まい/室内空気汚染/空気と上手くつきあう					
4回	通風と換気/においを上手にコントロール					
5回	断熱/結露/暑さや寒さを上手にコントロール					
6回	日照と日射/採光と照明/明るさを上手にコントロール					
7回	健康住宅のおさらい(中間テスト)					
8回	豊かに暮らすために					
9回	健康に暮らす住まいと住まい方についてのまとめ					
10回	住まいを支える仕組み					
11回	自分のお気に入りの住まいを図書館で探す					
12回	自分のお気に入りの住まいを説明する					
13回	住まいの設備と省エネ					
14回	安全に暮らすために					
15回	住情報と上手くつきあう					
試験等	第7回では中間テストを行う、最終回にレポート課題あり					
[成績評価] 取り組み度(授業態度、コミュニケーションシート、レポート)50%と学習度(テスト)50%で総合的に判断して評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 翌週の授業内容を伝えるので、教科書の当該箇所を予習の上で授業に臨むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	住まいのミカタ	水上裕、大橋寿美子 他	学芸出版社			
参考文献	健康に暮らすための住まいと住まい方エビデンス集	健康維持増進住宅研究委員会他編	技報堂			
[備考] オフィスアワーとメールアドレスは研究室扉に掲示、質問・連絡はメール可。						

科目名 (英語名)	インテリア計画 生活スタイルとインテリア HUMAN ENGINEERING		科目コード 222250	(ふりがな) 担当者	おおはしすみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 自分自身の生活や生活空間をプロデュースできるように、普段なにげなく過ごしている自らの生活や生活空間を意識的に見直して問題点を抽出しておく。						
[授業の具体的到達目標] ①造形原理を理解する ②インテリアデザインの歴史を理解する ③インテリア計画の考え方・進め方を習得する						
[授業の概要] インテリアデザインの計画は、その空間でどのような人がどのような行為を行う空間なのかを検討し、空間の利用者に対応し、快適に過ごすことができる計画が求められる。具体的に学ぶ内容は以下の3つの項目 ①インテリアデザインの基礎となる造形原理 ②インテリアデザインの歴史 ③インテリア計画 である。また講義内容に関連したレポート課題の提出や発表、および講義内容に関するコメントを提出する。						
[授業計画] ※授業の進行によって内容を変更する場合がある						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	インテリアデザインとは・間取りの読み方・住生活を読む1					
3回	間取りの読み方・住生活を読む2					
4回	間取りの読み方・住生活を読む3					
5回	インテリア構成材に触れる					
6回	私の部屋のインテリア構成材 発表					
7回	インテリアの造形 造形原理					
8回	インテリアの色彩と照明					
9回	インテリアの色彩と照明 ・小テスト					
10回	インテリアデザインの歴史 西洋1					
11回	" 西洋2					
12回	西洋3 ・インテリアデザインスタイル					
13回	" 日本1					
14回	" 日本2 ・小テスト					
15回	振り返り・ 課題発表					
試験等	なし					
[成績評価] 授業態度 10%、コメント表の内容及びレポート提出とその発表 20%・小テスト 70%により総合評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] スケジュールに合わせて、作品を完成させてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	変わる家族と変わる住まい	大橋寿美子・篠原聡子・小泉雅生 著	彰国社			
	住まいのミカタ	水上裕、岩崎敏之、大橋寿美子 他	学芸出版社			
	プリント配布					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室に貼り出しますので、相談に来てください。						

科目名 (英語名)	インテリアコーディネーション		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおはしすみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤
	ものづくりのストーリーを学ぼう INTERIOR COODINATION		285255			専任
1単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 製図道具等一式(貸出)を使用します。製図用シャーペンのみ購入ください。						
[授業の具体的到達目標] ①ものづくりのストーリーを習得する ②模型制作の基本的な技術を習得する ③空間を立体的に理解する						
[授業の概要] ものをつくり上げるプロセスでは、何をつくるのか?なぜ、つくるのか?というコンセプトがあり、それを形にしていけます。そして、仕上がったものについて、どのようなコンセプトによってその形になったかということ語るができなければなりません。 企画書の作成、作品の制作、プレゼンテーションといった段階を踏み、自らの想いを実際の形にするという体験を通して、ものづくりのストーリーを学ぶことを目指します。						
[授業計画] ※授業の進行によって内容を変更する場合があります						[担当]
1回	ガイダンス	～ものづくりの為の基礎的な道具の使い方を学ぶ				
2回	立方体を作ろう①	～スチレンペーパーを使って立体を作る				
3回	立方体を作ろう②	～スチレンペーパーを使って立体を作る				
4回	立方体を作ろう③	～スチレンペーパーを使って立体を作る				
5回	立方体を作ろう④	～スチレンペーパーを使って立体を作る				
6回	個室のインテリアコーディネーションをしよう①					
7回	個室のインテリアコーディネーションをしよう②					
8回	個室のインテリアコーディネーションをしよう③					
9回	個室のインテリアコーディネーションをしよう④					
10回	個室のインテリアコーディネーションをしよう⑤					
11回	個室のインテリアコーディネーションをしよう⑥					
12回	個室のインテリアコーディネーションをしよう⑦					
13回	個室のインテリアコーディネーションをしよう⑧					
14回	個室のインテリアコーディネーションをしよう⑨					
15回	個室のインテリアコーディネーションをしよう⑩	発表会・講評				
試験等	なし					
[成績評価] 作品への取り組み姿勢 30%、作品の評価 70%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 良い作品を作るために日ごろからインテリアデザインや住宅作品の雑誌や本を読むことを習慣にしましょう。提示する全体スケジュールに合わせて作成できるように、作業を進めてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 授業中は集中して作品を制作しましょう。オフィスアワーを設定します。時間を研究室に貼り出しますので、相談に来てください。						

科目名 (英語名)	ビジュアルデザイン Visual Design		科目コード	(ふりがな) 担当者	みず がみ ゆたか 水 上 裕	専任・非常勤
			262065			専任
1 単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 作品ストック用のファイル(A4判)及び0.9mm2B 芯のシャープペンまたは2B 芯の鉛筆を準備して下さい(初回のガイダンスにて商品の違いを説明し、推奨品を指示します)。						
[授業の具体的到達目標] 自分のデザインイメージを形にするための基礎技法を学び、コンピューターグラフィックデザインができるようになります。広告制作や商品企画に必要なアイデア力と表現力を身につけ、成果品としてポートフォリオ(作品集)を完成させます。						
[授業の概要] グループワーク形式で自分の作品集の表紙や雑誌の表紙、イベント用カードなどを作ります。制作に必要なパソコンやデジカメ活用だけでなく、毎回グラフィックデザインの基礎も身につけていきます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス、MY アイコンをつくろう(細部を切り捨てて特徴を抽出するコツをつかむ)					
2 回	MY スタンプをつくろう(他者目線で作成)、鉛筆表現の基礎技法を身につける					
3 回	MY スタンプ仕上げ、ポートフォリオの表紙作成の概要説明					
4 回	ポートフォリオの表紙を作成する1、フォトタッチを楽しむ					
5 回	ポートフォリオの表紙を作成する2、解像度について理解する					
6 回	ポートフォリオの表紙を作成する3、文字入れ、フォントについて学ぶ					
7 回	ポートフォリオの表紙を仕上げる、発表会					
8 回	ファッション系雑誌の表紙をつくる1					
9 回	ファッション系雑誌の表紙をつくる2					
10 回	ファッション系雑誌の表紙をつくる3					
11 回	ファッション系雑誌の表紙を仕上げる					
12 回	イベント集客用のダイレクトメールをつくる1					
13 回	イベント集客用のダイレクトメールをつくる2					
14 回	私うけアイテム(リーフレット)作成1					
15 回	私うけアイテム(リーフレット)作成2、発表会					
試験等	試験は行わない。ポートフォリオの完成度を高めて提出。					
[成績評価] 取組度 40 点(提出物不備・遅れ、意欲・態度、授業妨害は減点)、学習度 60 点(成果品、作品へのこだわり・工夫などを評価)。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 授業に必要なダイレクトメールやリーフレット、カタログなどの収集を指示することがある。授業で仕上げた作品は授業時間外に完成度を上げてファイリングしていくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	特になし					
[備考] この授業は図書館のパソコン(Mac book Pro)を129 教室に持ち込んでグループワーク形式で作品づくりを行うので第2 回目以降は授業開始前に準備のこと。オフィスアワーとメールアドレスは研究室扉に掲示、質問・連絡はメール可。						

科目名 (英語名)	カラーコーディネーション Color Coordination		科目コード	(ふりがな) 担当者	みずがみ ゆたか 水 上 裕	専任・非常勤
			262600			専任
2 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] インテリアデザインコース用科目です(フードコースの受講可)。毎回A5判又はA4判2つ折りのプリントを配布するので、A5判のルーズリーフバインダー1冊を用意して下さい(初回ガイダンスにて指示します)。インテリアのカラーシミュレーションはグループワーク形式ですので定員を30名とします。						
[授業の具体的到達目標] 1. カラーコーディネートの基礎(色彩検定3級程度)を身につけます。 2. インテリアの目的に合ったカラーコーディネーションの知識や考え方を学びます。						
[授業の概要] カラーコーディネートの基礎を学んだ上で、図書館のMacBookを用いてグループワーク形式でインテリアのカラーシミュレーションを行います。型にはめるデザインの手法、型崩れの注意点、型破り事例など、快適性や安全に配慮した実践的なインテリアのカラーデザインを学びます。						
[授業計画]						[担当]
1回	色のはたらき、カラーコーディネートの仕事と学びの概要					
2回	色はなぜ見える、色を見る眼のしくみ、光と色、色の名前					
3回	照明と色の見え方、色光の混色、色料の混色、慣用色名					
4回	同じ色を正確に再現するには(色のものさし)、言葉による色の表現					
5回	PCCS表色系、マンセル表色系					
6回	色の心理的効果、色の視覚効果、色の知覚的効果					
7回	配色を考える手がかり、色彩調和1					
8回	色彩効果、色彩調和2					
9回	暮らしの中で役立っている色彩計画					
10回	ファッションと色彩、インテリアと色彩					
11回	カラーコーディネートの基本総まとめ、中間テスト					
12回	インテリアデザインとカラーコーディネーション					
13回	インテリアのカラーシミュレーション1(色の選択と着色)					
14回	インテリアのカラーシミュレーション2(カラーハンティング)					
15回	インテリアのカラーシミュレーション3(仕上げ作業)					
試験等	第11回の授業時に中間テストを行う、最終回にレポート課題あり					
[成績評価] 毎回提出するコミュニケーションシートや小テストにより取組度として40点、中間テストと色彩検定結果の高い方の点数を学習度として40点、成果品及びレポート課題を20点で評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 毎回学習スケジュール管理をしっかり行うこと。毎回、授業の冒頭で前回プリントの理解を点検するので復習は必須。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	色彩検定公式テキスト3級編	全国服飾教育者連合会	株A・F・T企画			
参考文献	カラーデザインのための色彩学	槇 究	オーム社			
[備考] 6月は2コマ連続授業を予定、初回ガイダンスにて説明する。マルチメディアの利用：授業13回以降は図書館のパソコン(Mac book Pro)を使って作品づくりを行うので授業開始前に準備のこと。オフィスアワーとメールアドレスは研究室扉に掲示、質問・連絡はメール可。						

科目名 (英語名)	インテリア設計 I Interior Design I		科目コード 262260	(ふりがな) 担当者	みず がみ ゆたか 水 上 裕	専任・非常勤 専任
	2 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 毎回 A5 判又は A4 判 2 つ折りのプリントを配布するので A5 判のルーズリーフバインダーを用意して下さい。						
[授業の具体的到達目標] 設計製図に関する基礎的な技能を身につけ、インテリア図面や間取りの読み書き計算が素早くできるようになります。また、自分のイメージを形にするための簡単な企画書を作る力を身につけます。						
[授業の概要] 戸建て住宅の設計及びマンションのリノベーション企画・設計を行います。設計を通して、図面上でのスケール感覚を身につけるとともに、図面表現技法(製図規約や設計製図の基本的手法)を学びます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	文字と線、平面図の基本練習、住宅の平面図を読み解く 1					
2 回	平面図作図、窓や扉の選び方や違い(メリットとデメリット)を学び表示記号をマスターする					
3 回	平面図の基本練習(間取り図に必要な各部屋の理解を深める)					
4 回	戸建て住宅の平面図を作成 1、住宅の平面図を読み解く 2					
5 回	戸建て住宅の平面図を作成 2					
6 回	平面図仕上げ					
7 回	立面図・断面図の描き方を解説、屋根と外観を考える					
8 回	断面図・立面図・屋根伏図を作成					
9 回	図面一式完成					
10 回	戸建て住宅の基本事項まとめ、新課題提示					
11 回	イメージシートを作成、自分のイメージを形にするための図面やスケッチを作る					
12 回	自分のイメージを表現し、人に伝えるための企画書に仕上げる 1					
13 回	自分のイメージを表現し、人に伝えるための企画書に仕上げる 2					
14 回	企画書仕上げ・完成					
15 回	発表会、質疑への対応・完成度を上げたうえで提出					
試験等	試験は行わない、インテリア設計ハンドブックの完成と作品の提出					
[成績評価] 取組度として意欲・態度・インテリア設計ハンドブックの完成度で 40 点、学習度として図面の完成度を 40 点満点、プレゼンシートと発表を 20 点満点で評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 毎回「目のつけどころ(形、色、素材、スケール感)」や「実践してみよう」を提示するので、予習・メモ書きの上、授業に臨むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	建築製図 基本の基本	櫻井良明	学芸出版社			
[備考] オフィスアワーとメールアドレスは研究室扉に掲示、質問・連絡はメール可(メールのタイトルに学生番号と氏名を入れること)。						

科目名 (英語名)	住まいの計画 House Planning		科目コード 262275	(ふりがな) 担当者	(やすまつ たかし) 安松 孝	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 授業時と期末に合わせて3回のテストがあるので、必ずこれらの試験を受けること。						
[授業の具体的到達目標] 住宅の設計が家族や生活の価値観に根ざしていることを理解し、住宅における自分の理想をイメージできるようになる。建築の特徴を言葉で説明できるようになる。						
[授業の概要] 建築の設計では、技術や合理性に基づく「機能」と、表現や芸術性に基づく「意匠」の両面が重要であり、よい設計はこの二つの領域のバランスの上に成立する。本講義では多くの実例を解説することにより、住宅を中心に、建築の機能的な設計に必要な基礎知識と、質の高い意匠を理解する素養を身につけることを目指す。						
[授業計画]						[担当]
1回	導入・建築の設計に求められること					
2回	ル・コルビュジエのサヴォワ邸における近代的な生活と機械					
3回	ダニエル・リベスキントのユダヤ博物館における形の意味					
4回	ミース・ファン・デル・ローエの柱と壁					
5回	テスト1・これまでの復習と補足説明、今後の学び					
6回	菊竹清訓のスカイハウスにおけるメタボリズムと家族観					
7回	アドルフ・ロースの住宅にみる迷宮と仮面					
8回	住宅における廊下と部屋の通り抜け 中廊下型と近代以前の住居					
9回	日本の住宅における内外の境界と庭					
10回	テスト2・これまでの復習と補足説明、今後の学び					
11回	公室通過型の住居 前川国男の自邸とアルトのマイレア邸					
12回	世界の有心型あるいは中庭型の住居と日本の現代住居					
13回	山本理顕の住宅にみる個室の位置づけ					
14回	ル・コルビュジエのモデュロール					
15回	角屋におけるグリッドと余白					
試験等	テスト3として期末試験を実施					
[成績評価] 授業時のテスト1と2をそれぞれ33%、期末試験を34%の比率で評価するが、授業時の発言も成績評価に加味する場合がある。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 授業のメモを整理してテストに備えること。授業で取り上げた建築家について、図書館にある作品集や伝記などに目を通しておくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献						
[備考] 授業の前後にオフィスアワーを設けます。非常勤講師控室に来てください。パワーポイントを使って建築の実例を数多くみる内容です。						

科目名 (英語名)	福祉住環境コーディネータ論 Housing Environment Coordinate		科目コード 242280	(ふりがな) 担当者	おおはしすみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 検定試験を受験する人のみ履修可能です。夏休み中に指定テキストの「第2章 健康と自立をめざして」を必ず自習しておくこと。検定試験への真剣な取り組みを求めます。						
[授業の具体的到達目標] 福祉住環境コーディネーター3級取得						
[授業の概要] 人間工学はモノ(道具)と人間との関係をより良い状態に改善、改良するという思想のもとに生まれた。最も基本となる人体寸法をもとに作業域や動作空間がつくられ、それらとモノとの関係から空間を計画する。高齢社会である近年は、特に高齢者のための住宅をとりまく住環境のあり方を人間工学の視点から考えていく必要がある。本講義では、検定試験日の11月末日までの集中講義としその期間内に全ての授業を終える。						
[授業計画] ※授業の進行によって内容を変更する場合があります						[担当]
1回	ガイダンス、第1章 暮らしやすい生活環境をめざして(福祉と住環境の連携)					
2回	少子高齢社会と共生社会への道 -現状と取り組み・課題					
3回	福祉住環境整備の重要性・必要性-福祉住環境コーディネーターの役割 在宅生活の維持とケアサービス-介護保険制度					
4回	在宅生活の維持とケアサービス-介護保険制度・障害者自立支援法					
5回	〃					・小テスト
6回	第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン バリアフリーとユニバーサルデザインを考える					
7回	生活中的問題点、共用品・福祉用具について・小テスト					
8回	移動・移乗のための福祉用具					
9回	起居・就寝、排泄入浴のための福祉用具、自助具					
10回	安全・快適な住環境の整備 屋外移動・小テスト					
11回	安全・快適な住環境の整備 屋内移動・水回り					
12回	安全・快適な住環境の整備 屋内移動・水回り、調理、起居・就寝					
13回	安心できる住生活とまちづくり・小テスト					
14回	健康と自立をめざして 疾病・障害を克服する・小テスト					
15回	全体総ざらい・模擬テスト					
試験等	検定試験受験					
[成績評価] 授業態度10%、小テスト20%、検定試験の結果70%で評価する						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 必ず毎回、復習の時間を確保するように、自分のスケジュールを見返し計画をたてましょう。夏休み中に2章を中心に予習し、第1回目にテストを実施する。授業中は集中し、授業後に復習を繰り返し行うこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	新版 福祉住環境コーディネーター 3級短期合格テキスト	渡辺 光子	日本能率協会マネジメントセンター			
参考文献	福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト 二訂版		東京商工会議所			
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室に貼り出しますので、相談に来てください。						

科目名 (英語名)	CAD 入門 Computer Aided Design		科目コード 262285	(ふりがな) 担当者	なんじょうあきこ 南條有希子	専任・非常勤 非常勤
	1 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] Windows の起動・終了程度の知識があれば受講可能。 テキスト、配布したプリントをまとめるファイルを持参のこと。						
[授業の具体的到達目標] CAD ソフト Jw_cad の使い方を学び、コンピューターで作図ができるようになる。 各ツールの使い方を覚え、最終的には住宅の平面図が描けるようにすることが目標。						
[授業の概要] Jw_cad ソフトの基本的な使い方から練習を始めて、少しずつステップアップしていく。 建築製図の知識を確認しながら、CAD で住宅の平面図をじっくり作図することで、基礎を身に着ける。 授業内での疑問点については、それぞれの進度に合わせた個人指導に重点をおいている。						
[授業計画]						[担当]
1 回	CAD の概要、基本の用語と操作					
2 回	課題 1 好きな形を描いてみよう～ツールに慣れるための練習～					
3 回	課題 1 練習課題					
4 回	課題 2 家具の作図					
5 回	仕上げと出力					
6 回	小テスト インテリア課題の説明					
7 回	木造住宅の平面図 課題 3					
8 回	課題 3 環境設定・基準線・寸法の作図					
9 回	課題 3 構造体の作図					
10 回	課題 3 構造体の作図					
11 回	課題 3 壁・階段の作図					
12 回	課題 3 建具の作図					
13 回	課題 3 設備・家具の作図					
14 回	課題 3 設備の作図・出力					
15 回	課題 3 出力・提出					
試験等	授業時間内の小テストを行う。課題をもって評価する。					
[成績評価] 課題 90%、小テスト 10% 各課題に配点があり、未提出の課題は 0 点となるのですべての課題を必ず提出のこと。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] やむをえず欠席した場合は、授業内容を自分で確認して自習すること。 わからない場合は次回の授業で質問することをメモしておくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	はじめて学ぶ Jw_cad 7	ObraClub	エクスナレッジ			
参考文献	やさしく学ぶ Jw_cad 実践編	ObraClub	エクスナレッジ			
[備考] E-ラーニングシステムの活用により、授業時間外にデータのダウンロード、提出も可能。 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける。						

科目名 (英語名)	ディスプレイ・収納計画演習 Display&Storage Design		科目コード 242310	(ふりがな) 担当者	まえだ くみこ 前田 久美子	専任・非常勤 非常勤
	1単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] インテリアが掲載されている雑誌から、興味のあるインテリアや小物が掲載されている切り抜きを集めておいてください。						
[授業の具体的到達目標] 1. 自分の生活を題材として、楽しく豊かな生活のアイデアが企画できる。 2. ディスプレイの基礎知識を学び、企画から実習、その効果を理解できる。 3. ディスプレイや収納計画演習から生活の観察力や発想力を養う。						
[授業の概要] 快適な生活空間は、人の立場から考えられた工夫にあふれ、住まい手の好みのテイストに彩られています。人間工学の視点を踏まえ、「空間・人・もの」の関係をライフスタイルから発想したディスプレイ実習と収納計画演習で理解することを目指します。						
[授業計画] クラスの状況や課題進捗状況で、内容や順番が変更になる場合があります。						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	自分を知る1	人間工学				
3回	自分を知る2	テイストの把握				
4回	自分を知る3	テイストの分析と実習1「コラージュボード作成」				
5回	ディスプレイ1	色の基礎知識				
6回	ディスプレイ2	ディスプレイの基礎知識				
7回	ディスプレイ3	ウォールデコレーションの基礎知識				
8回	ディスプレイ4	実習2「129教室 クリスマスディスプレイ」企画				
9回	ディスプレイ5	実習3「129教室 クリスマスディスプレイ」計画				
10回	ディスプレイ6	実習4「129教室 クリスマスディスプレイ」設営				
11回	まとめと収納計画1	ディスプレイ実習のまとめ「レポート作成」と収納の基礎知識				
12回	収納計画2	収納の手法				
13回	収納計画3	実習5「衣類等の収納」企画				
14回	収納計画4	実習6「衣類等の収納」実習				
15回	まとめ	レポート試験				
試験等	レポートおよび実習					
[成績評価] 取り組み姿勢 50%、企画・設営(グループワーク内態度) 20%、レポート 30%の総合評価とします。全て講義内で取り組みます。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 日常から生活することに興味を持ち、気づいたことをメモやデータで記録しておいてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献	ルームアクセサリ	社) インテリア産業協会	産業大学出版部			
	収納と空間構成	社) インテリア産業協会	株式会社井上書院			
[備考] 上記以外の担当者：佐藤美保子 実習中心であり、自学自習上のアドバイス、2名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、パワーポイントを用いたスクリーン使用の講義です。資料は授業時に配付しますが、各自で必ずファイルして講義時に持参してください。行事予定により、内容変更があります。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	発達心理学 Developmental Psychology		科目コード 222355	(ふりがな) 担当者	(かねしげ としのり) 金重 利典	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 子どもサービスコース必修科目です テキストがわりにプリントを配布しますので、A4 ファイルを用意してください グループディスカッション・ワークへの積極的参加を望みます						
[授業の具体的到達目標] 子どもが生まれてから大人になる間の変化を知り、それぞれの発達期における特徴を理解する 今まで自分が成長してきた軌跡を発達の観点から振り返り、自分についての理解を深める						
[授業の概要] 子どもは生まれてから、どのようにして大人のようになるのでしょうか。この問題に取り組むための学問が発達心理学です。何もできないようにみえる子どもであっても、大人とのかかわり合いの中でどんどんと成長をしていきます。その子どもの様子を、特に発達の大きな変化する大きい児童期までを中心に引き上げます。教員による講義のほかに、ビデオ鑑賞やグループディスカッションを行い、理解を深めます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					金重
2回	発達心理学とは：遺伝と環境					金重
3回	発達段階と発達課題					金重
4回	身体の発達・感覚の発達					金重
5回	認知発達					金重
6回	言語発達					金重
7回	アタッチメント					金重
8回	心の理論					金重
9回	感情理解の発達					金重
10回	仲間関係の発達					金重
11回	道徳性の発達					金重
12回	共感の発達					金重
13回	発達障害					金重
14回	各発達段階における特徴					金重
15回	まとめ					金重
試験等	期末試験を行います					
[成績評価] 平常点 (20%)、毎回のリアクションペーパー (30%)、期末試験 (50%)						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 授業中に配布するプリントを各自整理・熟読してください						
	書名	著者	出版社			
テキスト	授業中にプリントを配付する					
参考文献	授業中に適宜紹介する					
[備考] 参考文献は授業中に適宜紹介する。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける。						

科目名 (英語名)	布おもちゃ製作 GOODS&TOY FOR KIDS		科目コード 222370	(ふりがな) 担当者	おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	前期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] 子どもサービスコース必修 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。						
[授業の具体的到達目標] 子どもたちが安全で安心して遊ぶことが出来るおもちゃを自分たちで考えながら製作します。 グループでの製作により、コミュニケーション力、企画力を養います。						
[授業の概要] 子どものための布おもちゃをグループで製作します。 1つ目のおもちゃは厚木市子育て支援センターに持っていき、来ているお子さんと一緒に遊びながら、どういう使い方をするのか、子どもたちはどんな色や形が好みかなどを観察し、次の製作に生かします。 2つ目は湘北祭キッズスペース用のおもちゃを製作します。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス 授業の進め方等					太田
2 回	ピンクッションの製作 デザイン決定、刺繍糸の使い方・縫い方の練習					太田
3 回	布おもちゃの製作 グループでつくる布おもちゃを決める (オリジナルなものをつくろう)					太田
4 回	作業手順・分担表、材料見積書を作成					太田
5 回	製作 (子どもたちがどのように遊んでくれるかを考えながらつくる)					太田
6 回	製作					太田
7 回	製作					太田
8 回	製作					太田
9 回	子育て支援センターでの観察・振り返りシートの記入 (授業とは別の日に実施)					太田
10 回	子育て支援センターでの振り返り グループでの反省、発表					太田
11 回	布おもちゃの製作 作業手順・分担表、材料見積書を作成					太田
12 回	製作					太田
13 回	製作					太田
14 回	製作					太田
15 回	振り返りシートの記入・発表・写真撮影					太田
試験等	試験は行いません。製作物、振り返りシートで評価します。					
[成績評価] 授業への取り組み方 50%、製作物 50% 製作物はきれいに仕上げただけでなく、不器用でも一生懸命、頑張ったか、グループ内での作業分担などという点も考慮して評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 締め切りに間に合わない場合はグループで集まって授業時間外に製作することもあります。						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	キッズスペース論 Kids Space		科目コード 222390	(ふりがな) 担当者	おおはしすみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもサービスコース」の必修科目です。 ・授業内で、公園や保育園などの見学を予定していますが、授業計画とは日程が異なることがあります。 ・子どもが使う道具やスペースについて、日頃から興味をもって観察しておくこと。 						
[授業の具体的到達目標] 子どもをとりまく空間や関わる人によって、子どもの行動がどのように異なるかを理解し、子どもにとって好ましい空間とはどのようなものかを考える力を身につけることが目的です。						
[授業の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく空間と環境について基礎知識を習得する。 ・子どものいる場の観察を通して、好ましい空間について考察する。 ・キッズスペースや道具について提案する。 						
[授業計画] ※授業の進行によって内容を変更する場合があります						[担当]
1回	ガイダンス —— 子どもをとりまく社会環境					
2回	住まいにおけるキッズスペースと環境行動 1					
3回	住まいにおけるキッズスペースと環境行動 2					
4回	公共の場におけるキッズスペースと環境行動					
5回	保育園など子育て施設におけるキッズスペースと環境行動					
6回	キッズスペースと環境行動まとめ / 小テスト					
7回	公共の場における見学・フィールドワーク調査について					
8回	見学・フィールドワーク調査実施					
9回	見学・フィールドワーク調査分析					
10回	保育園など子育て施設における見学・フィールドワーク調査について					
11回	見学・フィールドワーク調査実施					
12回	見学・フィールドワーク調査分析					
13回	見学・フィールドワーク調査発表					
14回	こどもに関する店舗デザイン1					
15回	こどもに関する店舗デザイン2 / 小テスト					
試験等	なし 小テストを数回行います。					
[成績評価] 授業中の取り組み姿勢 10%、提出物とその発表 20%、小テスト 70%により総合評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 授業で配布するプリントを自分なりに整理してください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし・プリント配布					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室に貼り出しますので、相談に来てください。						

科目名 (英語名)	心理学A (Introduction to Psychology)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			222410			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] 自主的に学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎する。						
[授業の具体的到達目標] ・心理学に関する基礎知識を習得する。 ・人間のこころにアプローチするさまざまな方法を知る。						
[授業の概要] 心理学は、人間の「こころ」を知るためにさまざまな方向や視点からアプローチをおこなってきた。それらの歴史（心理学史）を概観し、心理学の多様なアプローチの歴史的背景をふまえながら、こころや知性を理解するための基礎的な概念を提示する。						
[授業計画]						[担当]
1回	イントロダクション：ヒトはなぜ自分の／他人の心を知りたいと思うのか					佐藤
2回	人間の特徴					佐藤
3回	発達に関する心理学 (1)					佐藤
4回	発達に関する心理学 (2)					佐藤
5回	発達に関する心理学 (3)					佐藤
6回	発達に関する心理学 (4)					佐藤
7回	記憶と知覚の心理学 (1)					佐藤
8回	記憶と知覚の心理学 (2)					佐藤
9回	記憶と知覚の心理学 (3)					佐藤
10回	記憶と知覚の心理学 (4)					佐藤
11回	自己に関する心理学					佐藤
12回	学習に関する心理学					佐藤
13回	メディアと発達 (1) 映像の理解					佐藤
14回	メディアと発達 (2) 教育におけるメディア利用と課題					佐藤
15回	まとめ					佐藤
試験等	期末レポート					
[成績評価] ・毎回のリアクションペーパーの内容 (50%) ・レポート (50%)：課題では必ず図書館にある心理学関係の本を読むことになる。普段から図書館の利用に慣れ、自主的に本を読むようにすること。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] ・授業中に紹介する参考文献を読み進めること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] ・状況に応じて内容を変更する可能性がある。 ・参考文献は授業中に適宜紹介する。						

科目名 (英語名)	子どものワークショップ演習 I Workshop for Child I		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			222375			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> 子どもサービスコースの必修科目で、子どもサービスコースのみ受講可 遅刻・欠席をしないこと。湘北祭、土曜日あるいは休日のワークショップに必ず参加すること。 						
[授業の具体的到達目標]						
<ul style="list-style-type: none"> 子どものためのワークショップの基礎を習得する。 子どものためのワークショップを企画し、実践できる。 イベントの企画実行力、子どもとのコミュニケーションスキルを身につける。 						
[授業の概要]						
この授業では、子どもを対象にしたワークショップ(学びを伴うイベント)の基礎を学び、実際に企画し、実践することまでを目的とします。具体的には、湘北祭でのキッズスペースと、小学生向けのワークショップの企画運営を行ってまいります。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス・子ども向けワークショップの基礎					全員
2 回	ワークショップ1の企画					全員
3 回	ワークショップ1の準備 ①					全員
4 回	ワークショップ1の準備 ②					全員
5 回	} ワークショップ I 実施<湘北祭・キッズスペースの運営>					全員
6 回						}
7 回	ワークショップ1の振り返り					全員
8 回	ワークショップ2の企画					全員
9 回	ワークショップ2の準備 ①					全員
10 回	ワークショップ2の準備 ②					全員
11 回	ワークショップ2のリハーサル					全員
12 回	} ワークショップ2の実施<小学生向けワークショップの運営 土日あるいは休日実施予定>					全員
13 回						}
14 回	}					全員
15 回	ワークショップの振り返り・まとめ					全員
試験等						
[成績評価]						
授業への参加状況(70%)、振り返りの発表・個人レポート(30%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容]						
授業時間外でも積極的に準備を進める必要があります						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	ワークショップデザイン論	山内祐平・森玲奈・安斎勇樹	慶應義塾大学出版会			
[備考]						
・上記以外の担当者:佐藤美保子						

科目名 (英語名)	チャイルドケア論 (Child Care)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			222380			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> ・「チャイルドケアオブザーバー」の資格取得を目指す学生が対象です。 ・毎回の授業出席，課題，土曜（または休日）に行われる集中講義への出席により，認定試験の受験資格が得られます。 						
[授業の具体的到達目標]						
<p>下記の授業計画に沿って，「チャイルドケアオブザーバー」に必要な知識，技能，姿勢を習得する。</p> <p>認定試験に合格し「チャイルドケアオブザーバー」の資格を取得する。</p>						
[授業の概要]						
<p>この授業は「チャイルドケアオブザーバー」の資格認定講座です。「チャイルドケアオブザーバー」とは，「お子様とご家族に安心，快適さ，より高い満足を提供する」ための知識と技術を持っていることを保証する資格です。デパート，レストラン，テーマパークなど，子どもがお客様として来るさまざまな場所でのサービスの質を上げるために，広く求められている資格といえます。</p> <p>授業では，子どもに関する基礎的な知識から実践で使える技術など，幅広く網羅して学びます。</p> <p>第12回から第15回は，資格認定を行うチャイルドマインダージャパンから講師を招き，1日の集中講義として実施します。集中講義は土曜または休日に行います。日程は後日連絡します。</p> <p>*テキスト代・試験料・資格認定料は授業開始前に支払う必要があります。*</p>						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					佐藤
2回	チャイルドケアオブザーバーの基本理念と誕生の社会的背景					佐藤
3回	チャイルドケアオブザーバーが活躍する職場					佐藤
4回	子どもの発達と心理					佐藤
5回	子どもの事故防止と怪我への対応，応急手当					佐藤
6回	体調の悪い子どもへの対応，子どものアレルギー					佐藤
7回	子どもの心をつかむコミュニケーション					佐藤
8回	子どもの困った場面での対応					佐藤
9回	子どもの安全な介助法					佐藤
10回	ご家族への理解，ご家族への接遇とマナー					佐藤
11回	提出課題の作成（これまでの内容のペーパーテスト。一定点数以上で集中講義が受講可能になります）					佐藤
12回	主に実習形式。1日の集中講義で行う。					佐藤・協会担当者
13回						佐藤・協会担当者
14回						佐藤・協会担当者
15回						佐藤・協会担当者
試験等						
[成績評価]						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況:50%，課題提出:50%（授業の単位認定と，資格認定試験の可否は関係ありません） 						
[準備学習（予習・復習等）の内容]						
事前にテキストの該当箇所を読んだうえで授業に臨むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	チャイルドケアオブザーバー養成講座	特定非営利法人新保育学会	新保育学会			
参考文献	特になし					
[備考]						

科目名 (英語名)	接客サービス特講 (hospitality Seminar)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			242387			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] ・外部講師との調整により、授業時間外での集中講義をおこなう場合がある。それにも必ず出席すること。						
[授業の具体的到達目標] ・ホテル業、アパレル業、子どもサービス業、それぞれの特質を知ること。 ・これらの業界における接客の知識と技術を身につけること。						
[授業の概要] ホテル業、アパレル業、子どもサービス業それぞれの企業から、おもに人事担当者を講師として招く。3つの業界の特質や現在の状況を学ぶとともに、接客サービスにおける実践的な知識やスキルを講義と実習により習得する。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					佐藤
2回	(1) 事前学習					佐藤
3回	(1) 外部講師による講義					佐藤
4回	(2) 事前学習					佐藤
5回	(2) 外部講師による講義					佐藤
6回	(3) 事前学習					佐藤
7回	(3) 外部講師による講義					佐藤
8回	(4) 事前学習					佐藤
9回	(4) 外部講師による講義					佐藤
10回	(5) 事前学習					佐藤
11回	(5) 外部講師による講義					佐藤
12回	(6) 事前学習					佐藤
13回	(6) 外部講師による講義					佐藤
14回	まとめと振り返り (1)					佐藤
15回	まとめと振り返り (2)					佐藤
試験等						
[成績評価] 授業への参加状況 (リアクションペーパー) (30%), 企業ごとの振り返りレポート (40%), 期末レポート (30%)						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 事前学習と振り返りのレポートの執筆を通して、外部講師による講義を有意義なものとする。						
	書	名	著	者	出 版 社	
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考]						